

# からまつ学寮にて

—— 未来に向かって飛翔する力を ——

風かおる窓に

かけゆく鳥よ

ひかるつばさ

ひかるつばさ

からまつの上を

あゝわれらも

かけゆく鳥と

からまつ学寮にて

申すまでもなく、この歌は、からまつ学寮の前身、上山小学校の校歌である。校歌は二節から成り立っているが、学寮の玄関脇に置かれた御影石には、先の二節目の歌詞が刻み込まれている。何故、一節目でなく、二節目の方を取り上げたのであろうか。思うに、それは、母校の象徴とも慕われているからまつの大樹が詠み込まれているからであろう。本学が譲り受けた後、この施設に「からまつ」の名を冠した理由もこの辺にある。



第3回比治山学園同窓会短大会総会風景

さて、学園長国信玉三先生が、上山小学校を研修施設として譲り受けられたのは、切串や大島の海岸で開かれていた臨海の学校を、騒音や汚染のない林間に移したいとお考えがあったことによる。

そのはじめ、国信先生は、交通不便で民家の一軒もないこの山中の学舎を、学生生徒に耐乏生活を経験させながら、生きる叡智を身につけさす五訓実践の場としてお考えになっていたようである。その意をふくんで、この学舎に「学寮」の名を付けられたのは学長清水文雄先生であった。

学寮とは、修行僧らの寮に名づけられていることから解るように、からまつ学寮も、単なる山の家や山荘ではない。それは、五訓実践の学修を目的とした学寮であって、物見遊山に来て宿泊するだけの建物ではない。

昨年、二百名収容の瀟洒な宿泊棟が建設されたから、学寮の利用が増加した。私も、この夏、新聞部に同行して利用させて頂いた。中高校からもブラスバンド部が来ており、共に数日を過ごした。

その時のことである。研修の合間に、寮庭で遊ぶ中高・短大生の和楽した姿を見ると、私の脳裏に、あの御影石の校歌の一文が浮んだ。それは、未来に向かって高く飛翔する力を、彼女たちの中に感じたからであろう。

丁度、かつての上山小学校の児童が、「からまつの上を、かけゆく鳥」とともに、希望を高く抱いて校庭で遊んでいたかのように。

私は、未来に向かって高く飛翔する力を秘めた中高・短大生を思うにつけ、宿泊棟だけでなく、「学寮」の名にふさわしい研究棟の建設が、いま、火急のことではないかと衷心感じている。気がつけば、寮庭のからまつの上を、鳥がまたかけぬけていった。